

神戸学院大学 中期行動計画 実行計画(第4層) 2014年度達成度評価表 分野:学生支援

		評価	理由
中期計画	1 健康的で充実した学生生活の実現		
実行計画	(1) 学生への生活支援策(健康管理・下宿・アルバイトなど)を強化する。	B	2015年度で改善に繋げるための具体的な改善策が必要である。
	(2) 学内奨学金制度などの見直しを行う。	A	今後も継続的な支援と制度の幅の拡大に期待する。達成度を明確にするための目標値の設定が望ましい。
	(3) 各種相談室の充実とその連携協力体制を強化する。また、医務室の体制を整えていく。	B	計画に基づき実行できており評価できるが、更なる支援の充実のためには、支援体制の整備について具体的に施策の検討が必要である。
	(4) 「なんでも案内」「ピア・サポート」などによる学生生活支援体制を構築する。	B	学生支援グループによる継続的な取り組みが不可欠である。
	(5) 新入生へのフォローアップ(サポート)体制を確立する。	B	教育開発センターや各学部と情報交換をしながら、2015年度の学部移転に備えたことは評価できる。継続的な実施が不可欠である。
中期計画	2 安全で快適なキャンパス環境の充実		
実行計画	(1) ハラスメント防止策の徹底を図る。	C	当初目標では想定外の人員減などにより、結果的に計画通りの実行が行えていない。ハラスメントに関わる施策は極めて重要であり優先順位も高いため、2015年度に向け早急に体制や施策を整える必要がある。
	(2) 禁煙指導を強化する。	B	学生のマナーが向上したことは評価できる。引き続き指導を継続し、更には、各種アンケートによる調査の結果の活用や、指導員による指導結果報告を広く学内に周知するなど、学生のみならず教職員への分煙の意識へのアプローチに努めるべきである。
	(3) 防犯対策を強化する。	B	防犯対策は、予防と再発防止に早急に対応する必要がある重要なものであるため、継続して対策に努め、予期せぬトラブル、事件事故があったときの対応について教職員への周知を行うなど、総務事務グループと学生支援グループとの連携が必要である。
	(4) 薬物乱用防止のための啓発活動を強化する。	B	さまざまな取り組みをしており評価できる。より成果を得られるよう継続的な取り組みが必要である。
	(5) 学生のグループワークを促進するためのゾーンを設置する。	B	利用方法の検討、とは、これからの運用に備えた利用方法の検討なのか、利用していく中で生じた問題や課題に応じて検討するものなのか不明瞭。また、利用状況も不明瞭であるため評定しかねる。
	(6) 学内食堂、売店などの充実を図る。	B	それぞれの機能充実に対して具体的な達成目標が不明瞭である。2015年度以降、設備面において更なる投資をするのか、サービス強化に特化するのかなど明確な目標を掲げる必要がある。
	(7) 学内トイレ、洗面所などの改善を進める。	B	年次目標は達成できていないが、実施に向けた活動実績は評価できる。2015年度の実施に繋がられるよう取り組みに期待する。
中期計画	3 課外活動の奨励と支援		
実行計画	(1) 課外活動参加者の増加策を検討する。	B	年に複数回課外活動の案内や勧誘等を行う機会を設けており、評価できる。継続的な取り組みによる効果に期待する。
	(2) 強化クラブ、準強化クラブ制度の再構築を行う。	A	見直し案について、計画的に会議を開催し答申したことは評価できる。
	(3) 課外活動活性化推進室(仮称)の設置を検討する。	D	第4層「課外活動活性化推進室(仮称)の設置を検討する」という目標に関わる内容が記述されていない。
	(4) 課外活動および各種学生団体、グループの発表・展示・活動の促進と支援を図る。	B	学生団体への施設利用促進については、2015年度も継続した取り組みを期待する。学生、高校との関係構築は今後の取り組みにとって非常に有効なものであるため、2015年度に期待する。
	(5) 課外活動施設・設備の充実を図る。	B	指定クラブ強化プロジェクトを開催し、2014年度内に見直し案を答申したことは評価できる。KPC・KAC両キャンパスでの課外活動の設備充実のために、引き続き年次計画で進めることを期待。
中期計画	4 キャリア支援の強化		
実行計画	(1) 企業訪問、学内企業説明会などによる企業との接点を強化する。	B	就職率の向上は重要であり、継続的な施策実施により、一流企業、地元の優良企業、双方との接点強化の推進に期待する。PR媒体としてのSNSの内容を充実する等、近年の流動的な就活時期に対応した情報収集・周知についても更なる強化を期待する。
	(2) インターンシップ制度の充実を図る。	C	キャリアセンターと学部の連携が必要である。また、学部ごとの専門性に応じたキャリアセンターのサポートに期待する。
	(3) 学生の就職活動状況の的確な把握のために、学部、研究科との連携を図る。	C	キャリアセンターを中心にPDCAを回しながら年度単位で施策を実施しているが、学部や研究科との連携にはばつきがある。キャリアセンターのリードにより、学部や研究科の的確な就職状況把握に努め、インプットだけでなくアウトプットの強化にも期待する。
	(4) 既卒者を含む就職未内定者に対するサポート体制を強化する。	C	学部の活動状況と成果が読み取れず、また、キャリアセンターと学部、研究科との連携の強化が必要である。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る